

基本方針1-1. 「計画的に調査・研究を進め、成果を共有する」に基づく措置											基本方針1-1. 進捗管理										
課題	番号	事業名	事業内容	主体			期間			財源	実施年度					令和6年度					
				主管課	大学	団体	市民	前期(3年)	後期(2年)		次期計画	R5	R6	R7	R8	R9	実施内容等			実施成果	
未把握の文化財に関する調査の推進	1	継続	文化財に関する計画的な把握調査の実施	山林寺院や祭りや行事、堂・祠等調査が充分進んでいない類型の文化財に対する調査を、大学等研究機関や市民、活動団体と協働して進める。(個別の文化財に関する調査事業については関連文化財群の措置として記載)	文化財保存活用課	●	●	●	○	○	○	外部資金(大学研究費)、国庫補助金、市費	○	○	○	○	○	山林寺院等の調査を、大学研究費(大学教員の科学研究費等)により、京都府立大学や地元団体(丹後ひくやま会)とともに実施中。	京都府立大学文化遺産学フィールド実習に協力。8月8日～10日実施。久美浜町において稲葉家文書、矢田神社、民俗行事等について資料調査や聞き取り調査を行い、特に未把握部分の把握に務めた。	普通	維持
調査成果が活用しやすい環境づくり	2	新規	調査成果の保存・管理等の推進	これまでの調査結果の保存・管理を進めるため、調査成果の整理、デジタル化などを進める。具体的には、絵画・彫刻・工芸品・古文書等に関して、3Dスキャンや写真撮影によるデジタル化を推進する。	文化財保存活用課	●					○	国庫補助金、市費									
基本方針1-2. 「保護の対象を広げ、適切な管理のための環境を整える」に基づく措置											基本方針1-2. 進捗管理										
課題	番号	事業名	事業内容	主体			期間			財源	実施年度					令和6年度					
				主管課	大学	団体	市民	前期(3年)	後期(2年)		次期計画	R5	R6	R7	R8	R9	実施内容等			実施成果	
文化財保護法や条例に基づく着実な文化財の保護	3	継続	文化財指定等の推進	未指定文化財のうち重要なものについて、文化財保護法や条例に基づく新規文化財指定に向けた取り組みを推進する。	文化財保存活用課			●	○	○	○	市費	○	○	○	○	○	新規文化財指定に向けた候補の検討を、文化財保護審議会に諮りながら進める。令和6年度の文化財保護審議会は、7月、2月頃の計2回開催予定。令和7年度中に指定できるよう、6年度中に調書を作成する。	新規文化財指定に向けた候補の検討を、文化財保護審議会に諮りながら進めた。審議会は、令和6年7月に開催。令和7年3月に2回目を開催予定。	普通	維持
	4	新規	「(仮称)京丹後市登録文化財制度」の創設の検討	市民の身近な文化財を市登録文化財として認定することにより、保存・活用を進めるための新しい制度の創設を検討する。	文化財保存活用課				○	○	○	市費	○	○	○	○	○	市登録文化財制度の創設に向けた検討を進める。	市民遺産制度を創設したことにより、未指定文化財について登録文化財制度を作らずとも市民遺産制度でカバーできるようになったため、検討の結果、市民遺産制度での運用に代えるものとした。	普通	完了
	5	継続	京都府文化財保護指導委員による巡視	文化財の保存・管理、普及啓発のため京都府文化財保護指導委員による巡視の支援を行う。	文化財保存活用課				○	○	○	府費	○	○	○	○	○	京都府文化財保護指導委員による巡視について、府との連絡調整や助言等の支援を行う。	京都府文化財保護指導委員による巡視について、府との連絡調整や助言等の支援を行った。	普通	維持
文化財の保存に係る財源の確保	6	新規	「(仮称)京丹後市文化財保護基金」の設立の検討	安定的に文化財の保存に関する財源を確保するため、ふるさと応援基金等を活用し、基金の設立を検討する。	文化財保存活用課				○	○	○	市費、寄付金等	○								
				ふるさと応援推進課				○	○	○	市費、寄付金等	○									
指定等文化財の適切な修理・保全	7	継続	京丹後市指定文化財等補助金	貴重な文化財を後世に残すために、所有者が行う指定文化財等の修理や保全に係る事業に対して補助金を交付する。	文化財保存活用課			●	○	○	○	市費	○	○	○	○	○	京丹後市指定文化財等補助金を運用する。	予算を250万円から300万円に拡充し、京丹後市指定文化財等補助金を運用(内200万円は京丹後市文化財保存活用基金から充当)。文化財所有者18者に対し補助金を交付。	普通	維持
適切な保存・管理のための資料内容の整理、市内資料館の機能の充実	8	継続	収藏品目録の整備と収蔵施設の集約	資料館等の収藏品目録の整備を行うとともに、分散収蔵となっている資料館に収蔵しきれない資料(民俗資料、考古資料、古文書)の集約をはかる。また、各区での保管が難しくなった資料を将来的に収集・収蔵することを想定し、収蔵施設の確保・拡張を検討する。	文化財保存活用課			●	○	○	○	国庫補助金、市費	○	○	○	○	○	資料館の収蔵資料について、台帳(目録)作成を進める。	丹後古代の里資料館収蔵庫の簡易台帳の運用、課題確認を進めた。	普通	維持

基本方針1-3.「魅力を発信し、多様な分野と連携して活用する」に基づく措置										基本方針1-3.進捗管理													
課題	番号	事業名	事業内容	主体			期間			財源	実施年度					令和6年度							
				主管課	大学	団体	市民	前期(3年)	後期(2年)		次期計画	R5	R6	R7	R8	R9	実施内容等			実施成果		評価	今後の方向性
多様な媒体を活用した情報発信	9	継続	広報、ケーブルテレビでの文化財の紹介	市広報、京丹後市ケーブルテレビを活用し、京丹後市文化財保存活用地域計画に示した京丹後市の歴史文化の特徴を紹介する。	文化財保存活用課					○	○	○	市費	○	○	○	○	○	各種文化財セミナーやイベントなどでケーブルテレビ、広報紙、各種SNSを活用する。	広報京丹後に文化財保存活用課が実施するイベントの案内や報告などの記事を13回掲載。また、文化財セミナー及び丹後古代の里資料館企画展示の展示解説をケーブルテレビで放送した。	高い	維持	
					秘書広報広聴課						○	○	○	市費	○	○	○	○	○	文化財保存活用課と協議の上、広報京丹後に関連記事を掲載する	広報京丹後に市内の遺跡等を紹介する記事を4回掲載した。	普通	維持
					デジタル戦略課						○	○	○	市費	○	○	○	○	○	コミュニティチャンネルで番組制作・放送を行う(週間ニュース、特番等)	本願寺本堂の45年ぶりの屋根の葺き替え現場や網野銚子山古墳、幾坂古墳出土品の報告会、丹後震災記念館の内部など、貴重な文化財の紹介を行った。	普通	維持
	10	継続	特別展示や企画展示の開催	市内の資料館で市の歴史文化を紹介する特別展示や企画展示を開催し、市民や市外の人々への普及啓発を図る。	文化財保存活用課					○	○	○	市費	○	○	○	○	○	市立丹後古代の里資料館及び郷土資料館において、企画展示や各種イベントを開催し、普及啓発を進める。 企画展:丹後古代の里資料館…3回(夏・秋・冬) 郷土資料館…2回(夏・秋) イベント:両館ともに夏休みイベント、資料館まつり1回	各資料館で次のとおり開催した。 ▶郷土資料館 企画展示2回(夏・秋)、資料館まつり1回(90人) ▶丹後古代の里資料館 企画展示2回(夏・冬)、特別展示1回(前期・後期)、資料館まつり1回(197人)、市内小中学生夏休み入館無料イベント(163人)	高い	維持	
					文化財保存活用課										国庫補助金、市費	○	○	○	○	▶「京丹後歴史文化めぐりマップ」の活用 令和5年度に開設した「京丹後歴史文化めぐりマップ」を使って、市内史跡等を周遊するスタンプラリーを実施する(11-12月予定)。また、参加者には、参加記念品としてオリジナル「網野銚子山御墳印」を配布する。 参加者目標:100人 サイト内の公開スポットやおすすめコースを追加する。 目標:スポット数の追加5件/月 おすすめコースの追加6件/年	▶スタンプラリー 「京丹後歴史文化めぐりマップ」を活用し、スタンプラリーを実施した(11/1~12/22)。参加者には、参加記念品としてオリジナル「網野銚子山御墳印」を配布した。題字は、丹後緑風高校書道部に依頼した。(参加品受取者数:19人) ▶スポット、おすすめコースの追加 スポット40件・おすすめコース2件 追加	普通	維持
					文化財保存活用課										国庫補助金、市費	○	○	○	○	○	「京丹後歴史文化めぐりマップ」を活用し、文化財に関する情報を市内外に向けて発信する。図書館(室)と連携し、本計画に掲げる「11のストーリー」をテーマにした特別コーナーの設置を検討する。	▶「京丹後歴史文化めぐりマップ」の活用 資料館企画展示やイベント情報などを掲載。 ▶図書館(室)との連携 引き続き検討する。	普通
12	継続	文化財に関する情報や調査成果の発信	市民や市外からの来訪者に対して、文化財に関する情報や調査成果の発信を行うため、京丹後市ホームページのデジタルミュージアム、文化財ライブラリーなどインターネット環境のほか、図書館・図書室で書籍や資料など紙媒体の活用を進める。	文化財保存活用課					○	○	○	国庫補助金、市費	○	○	○	○	○			普通	維持		
				生涯学習課							○	○	○	国庫補助金、市費	○					図書館内における市内の文化財等に関する特集展示の実施	丹後図書室において、ジオパークに関連した、テーマ「地震からの復活を見る」(昨年度から引き続き実施)「カイトと猫」「丹後ちりめんと丹後の水」を設け説明等展示、併せて関連図書の展示を実施	普通	維持
				文化財保存活用課										国庫補助金、市費	○	○	○	○	○	大学との共同研究(府大ACTR等)や資料館の企画展示に関連し、京丹後市文化財セミナーを開催する。	▶文化財セミナー ACTR報告会:3/8開催	普通	維持
文化財の観光活用に向けた整備の推進	14	新規	文化財に関連するエコツーリズムの推進	健康推進課	●	●	●	○	○	○	国庫補助金、府補助金、市費												
				観光振興課	●	●	●	○	○	○	国庫補助金、府補助金、市費	○	○	○	○	○	○	○	○	①ジオサイトを活用したトレイルツアーを造成し、京丹後市観光公社で販売する。 ②長寿のまちという特色をいかした京丹後ヘルスツーリズムを造成し、京丹後市観光公社で販売する。	①全但バス:1回24人、神姫観光:13回207人、農協観光1回170人	普通	維持
				生涯学習課	●	●	●	○	○	○	国庫補助金、府補助金、市費	○								市内の文化芸術及び文化財のスポットを巡る、1日限定のバスツアーの実施を予定。	京都:Re-Serch実行委員会が主催する展覧会バスガイドが同乗し、メイン前~経ヶ岬の路線にみえる文化財や地域の歴史を案内した。市内外から30代~80代まで6名が参加、80%が「大変よかった」と回答した。	高い	維持

基本方針1-3.「魅力を発信し、多様な分野と連携して活用する」に基づく措置（続き）										基本方針1-3.進捗管理													
課題	番号	事業名	事業内容	主体			期間			財源	実施年度					令和6年度							
				主管課	大学	団体	市民	前期(3年)	後期(2年)		次期計画	R5	R6	R7	R8	R9	実施内容等	実施成果	評価	今後の方向性			
文化財の観光活用に向けた整備の推進	14	新規	文化財に関連するエコツーリズムの推進	多様な主体が連携して、「フードツーリズム」、「ジオツーリズム」、「産業ツーリズム」、「伝統・伝承ツーリズム」、「ヘルスツーリズム」、「史跡ツーリズム」を推進する。	商工振興課	●	●	●	○	○	○	国庫補助金	○						▶地域一体型オープンファクトリーイベント 2025大阪・関西万博の来場者を京丹後に誘客するための受入体制整備としてコーディネーター育成やプレツアーを実施	R6.7.18 キックオフ/第1回ワークショップ 6名参加 R6.7.30 第2回ワークショップ 12名参加(高校生1名含む) R6.9.25・10.9・10.23 OFコーディネーター養成講座(オンライン) 7名参加 R6.10.18・19 国内クリエイター向けプレツアー 7名参加 R7.1.21 万博年キックオフ/ワークショップ 6名 R7.1.29 先進地視察(福井市)2社参加 【予定】 R7.3.10・11 海外クリエイター向けプレツアー R7.3.11・12 高校生向けファクトリーツアー	普通	拡充	
					長寿福祉課	●	●	●	○	○	○	国庫補助金、府補助金、市費											
					農業振興課	●	●	●	○	○	○	国庫補助金、府補助金、市費	○										
					海業水産課	●	●	●	○	○	○	市費	○	○								海業の推進と地域水産物の販路拡大に係る取組を支援した。 (取組内容) 竹野漁港を拠点とするスキューバダイビング事業を支援 ジオパークエリアでのスキューバダイビング事業を支援	普通
				文化財保存活用課	●	●	●	○	○	○	国庫補助金、府補助金、市費	○	○	○	○	○		史跡ツーリズムの具体的な内容について、関係課と連絡調整を図りながら、検討を進める。	網野銚子山古墳を中心とした古墳ツアーの作成を京丹后市観光公社に委託(定員40人枠完売)。4/27にツアー実施予定のほか、3件が企画進行中。	高い	維持		
本市のユニバーサルデザイン化の推進	15	新規	文化財のユニバーサルデザイン化の推進	より多くの人が文化財を身近に感じることができるよう、来訪者が文化財を身近に感じられるような看板の整備、デザインの検討のほか、史跡や資料館などのバリアフリー化など、ユニバーサルデザイン化を推進する。	文化財保存活用課	●	●	○	○	○	国庫補助金、市費	○	○	○	○	○		網野銚子山古墳整備にあたり、ガイダンス施設等ユニバーサルデザイン化を実施する。また、古墳地内の看板について、多くの方に親しんでもらえる看板デザインにする。	▶ガイダンス施設等 ユニバーサルデザインを考慮したガイダンス施設を建設中(3月末完成予定)。 ▶看板 小学生から親しんで読んでもらえるよう、言葉遣いやルビに気を付けるとともに、写真やイラストを多用し分かりやすい看板を作成中(3月末完成予定)。また、新たに網野銚子山古墳のイラストを作成した。	高い	維持		
					観光振興課	●	●	○	○	○	国庫補助金、市費	○	○	○	○	○				①ジオパーク等を題材にした教育旅行実現に向け、観光公社でモニターツアーを実施する。 ②文化財、産業、自然、食等を活用した大人の教育旅行コンテンツ造成に向け、里山文化案内人を養成していく。	①香港から教育旅行の受け入れ(生徒20名、教員2名、通訳1名) ①教育旅行を扱う国内旅行会社向けファミトリップの実施を予定(3/3)	普通	維持
本市の多様な自然や歴史文化を活かした「教育旅行」の誘致推進	16	新規	文化財をテーマとした教育旅行の推進	本市の自然、歴史、文化、伝統、産業、環境を教育目的に据えた「教育旅行」の誘致を推進する。	観光振興課	●	●	○	○	○	市費	○	○	○	○	○							
					商工振興課	●	●	○	○	○	市費												
					生活環境課	●	●	○	○	○	市費												
					文化財保存活用課	●	●	○	○	○	市費				○	○							

基本方針1-4.「普及啓発の推進により、歴史文化の担い手を育てる」に基づく措置										基本方針1-4.進捗管理												
課題	番号	事業名	事業内容	主体				期間			財源	実施年度					令和6年度					
				主管課	大学	団体	市民	前期(3年)	後期(2年)	次期計画		R5	R6	R7	R8	R9	実施内容等		実施成果	評価	今後の方向性	
若年層を中心とした市民の興味関心の向上	17	継続 「丹後学」と連携した歴史文化学習	保幼小中一貫教育で実施される「丹後学」のモデルカリキュラムに、京丹後市文化財保存活用地域計画に示した京丹後市の歴史文化の特徴を学ぶ機会を位置づけ、児童生徒の郷土愛の育成につなげる。	市内小・中(学校教育課)					○	○	○	市費	○	○	○	○	○	令和7年度からの市内小中学校での活用に向け、令和5年度に引き続きモデルカリキュラム作成部会による、新しい「丹後学」のあり方について検討・研究活動に取り組む。	令和5・6年度2か年のモデルカリキュラム作成部会の研究活動とあわせて新しい「丹後学」のモデルカリキュラムを冊子化し、令和6年度末に市内各校園所に配付予定(令和7年度から活用開始)	高い	維持	
				市内保・幼(子ども未来課)					○	○	○	市費	○	○					本市の保幼小中一貫教育の大きな特色である「丹後学」が、子どもたちの主体的な活動を通して、知識の高まりや探求心が生み出されるものとなるよう、各校園でモデルカリキュラムに沿った郷土愛の育成を行う。	保幼小中一貫教育の大きな特色である「丹後学」について、職員への知識・技術面の高まりや、広がり・深まりが生み出されるものとなるよう、各校園で創意工夫ある実践・研究を積み上げた。	普通	維持
				文化財保存活用課					○	○	○	市費	○	○	○	○	○	各小中学校に配布・配信した『京丹後市地域学習副読本』を効果的に活用してもらうため、各学校に対し活用方法などを提示する。リンク先で民俗芸能などの動画が見られるようにするなど検討を進める。	▶副読本 小学校出前授業の際に、副読本を活用した授業を実施。また、副読本活用率を高めるため、各学校に啓発活動を実施。来年度配布分について丹後震災に関する動画が見られるサイトへのリンク用QRコードを掲載(令和7年度配布分)。 ▶現地見学 地域の文化財に触れる機会を増やすため、コウノトリの足環装着や本願寺本堂修理現場の現地見学を実施。 コウノトリ足環装着:小学校2校 本願寺修理現場見学:小学校1校、中学校1校	高い	維持	
18	継続	社会科副読本による歴史文化学習	本市の歴史文化を分かりやすく解説する社会科副読本(小学生向け・中学生向け)を作成するとともに、副読本の中で京丹後市文化財保存活用地域計画に示した歴史文化の特徴を紹介する。	学校教育課					○	○	○	市費	○	○	○	○	令和6年度の市内の小学校3年生に配付する(3・4年生時に活用)社会科副読本を改訂。本市の地形地質、遺跡、ものづくり、伝統文化を掲載するとともに、データ・資料の最新化及び社会科での学習内容と関連する本市の状況をより探究的に学べる資料とする。	令和5年度の改訂内容を引き継ぎながら、関係各課の協力を得て、各ページのデータ・資料等を最新版に更新。令和6年度末に冊子化したものを各校に配付し、第3学年児童が活用。	高い	維持		
				文化財保存活用課					○	○	○	市費	○	○	○	○	各小中学校に配布・配信した『京丹後市地域学習副読本』を効果的に活用してもらうため、各学校に対し活用方法などを提示する。リンク先で民俗芸能などの動画が見られるようにするなど検討を進める。	令和5年度に抜本改訂を行い作成した『京丹後市地域学習副読本』を実際に学校現場で運用開始。使用状況を確認しつつ、来年度配布分について丹後震災に関する動画が見られるサイトへのリンク用QRコードを掲載(令和7年度配布分)。	普通	完了		
19	継続	文化財セミナー等の開催	文化財セミナーや文化財の見学等、市民を対象とした歴史・文化の学習機会を充実させる。	文化財保存活用課					○	○	○	市費	○	○	○	○	大学との共同研究(府大ACTR等)や資料館の企画展示に関連し、京丹後市文化財セミナーを開催する。	▶文化財セミナー ACTR報告会:3/8開催	普通	維持		
地域の歴史文化を語る人材、読み解ける人材の育成	20	継続	「(仮称)地域史料講座」「(仮称)ガイド養成講座」の実施と人材育成	文化財保存活用課		●	●			○	○	市費	○	○	○	○	京丹後博士講座を開催する。また、網野銚子山古墳に係るガイド養成講座を実施する。	▶京丹後史博士講座 検討中 ▶網野銚子山古墳ガイド養成講座 9/29、10/12、10/26、11/9の計4回実施。延べ105人が受講。 ▶出前講座 ガイド団体に網野銚子山古墳に係る出前講座を実施予定(3月2回)。	高い	維持		
				生活環境課		●	●					○	国庫補助金、市費									
	農業振興課			●	●					○	国庫補助金、市費	○	○	○	○	○	就農初期の農業者に資金や機械導入等を支援し、新規就農者の確保・育成を図る。(農業次世代人材投資資金交付金・農業経営開始資金交付金・新規就農研修資金償還金助成事業など)	R6新規就農者採択 3名 ・農業経営開始資金交付金	普通	維持		
	観光振興課			●	●					○	国庫補助金、市費	○	○				①ジオパークガイドの養成やスキルアップを図る講座を実施する。 ②里山文化案内人を養成する。	①ガイド養成講座(10/3・10/10・10/17・10/24) ※受講者6名、ガイド研修会(10/31)※参加者16名 ②里山文化案内人によるツアー造成	普通	維持		
22	新規	歴史文化を活かしたコンテンツプロデュースする人材の育成	市内の様々な文化財をコンテンツとしてプロデュースできる人材を育成する。	文化財保存活用課		●	●				○	国庫補助金、市費										

基本方針1-5.「持続的に文化財を継承する体制を検討する」に基づく措置											基本方針1-5.進捗管理										
課題	番号	事業名	事業内容	主体			期間			財源	実施年度					令和6年度					
				主管課	大学	団体	市民	前期(3年)	後期(2年)		次期計画	R5	R6	R7	R8	R9	実施内容等			実施成果	
京丹後市の庁内連携、活動団体間の連携の強化	23	継続	文化財保存活用地域計画推進協議会の設置・運営	文化財保存活用地域計画を地域総がかりにより着実に推進するため、策定協議会を推進協議会へ発展・設置し、運営する。	文化財保存活用課	●	●	●	○	○	○	市費	○	○	○	○	○	本計画の進捗管理等を行うための推進協議会を設置し、運営する。今年度内に2回(7月頃・3月頃)開催予定。	本計画の進捗管理等を行うための推進協議会を設置し、7月・3月の2回開催した。	普通	維持
各区の歴史文化の着実な継承に向けた体制づくり	24	新規	「(仮称)京丹後市市民遺産会議」の発足	多様な市民が文化財の保存・活用に参加できるよう「(仮称)文化財保存活用市民会議」を発足させると共に、同会議の活動により、文化財保存活用地域計画の周知をはかる。	文化財保存活用課		●	●	○	○	○	市費	○	○	○	○	○	「京丹後市市民遺産会議」を3回程度開催し、年度内に「京丹後市市民遺産」の認定を目指す。認定目標:10件	▶市民遺産会議の実施 7/31, 10/8, 3月末(予定) ▶市民遺産の認定 2件	高い	維持
	25	新規	「新たな地域コミュニティ組織」との連携	祭礼行事の継続や身近な文化財を地域活性化につなげるため、現在進められている「新たな地域コミュニティ組織」との連携を強化する。	地域コミュニティ推進課		●	●	○	○	○	市費	○	○	○	○	補助金及び交付金等により地域が行う新たな地域コミュニティ組織の設立を支援し、モデル地域の増加を目指す。(モデル地域の目標数:34地域、R5実績は22地域)	補助金等の交付や伴走支援により、新たな地域コミュニティ組織の設立と活動を支援した。(モデル地域数:30地域)	普通	維持	
他地域・他機関と連携した歴史文化を活かしたまちづくりの展開	26	継続	文化財に関する計画的な把握調査の体制づくり	調査が進んでいない類型の文化財の調査を大学等研究機関や市民、活動団体と協働して持続的に調査を実施できる体制をつくる。	文化財保存活用課	●	●	●	○	○	○	市費	○	○	○	○	○	主に府大ACTR等の事業を通じて、大学・学校・市民と持続的に連携できる体制の構築を進める。	府大ACTR等を通じて、府大・高龍小・須田区との連携を推進。須田平野古墳の発掘調査を実施するとともに、高龍小連携プログラムを実施し、子供たちの発掘体験等、教育活動を行った。	高い	維持
	27	継続	海の京都DMOによる「海の京都観光圏」の取組推進	日本遺産など北部7市町連携に点在する文化財を周遊する文化観光の強化を推進する。	観光振興課		●		○	○	○	市費	○	○	○	○	○	海の京都DMOが進める文化観光の取組を支援する。	海の京都DMOが行う広域的な歴史的・文化体験ツアーの造成に向けた補助金支援を実施。	普通	維持
	28	継続	豊岡DMOその他広域観光団体との連携	関係府県市町等との連携による広域的な文化観光を推進する。	観光振興課		●		○	○	○	市費	○	○				北近畿広域観光連盟が進める教育旅行や団体旅行誘致に向けた取組を支援する。	北近畿広域観光連盟に対し、補助金支援を実施。市内体験施設や周遊アクセスの魅力発信に寄与した。	普通	維持

3-1. 「気張る」丹後人の気質とものづくりのふるさとに関する措置											3-1. 進捗管理												
課題	番号	分野	事業名	事業内容	主体				期間			財源	令和6年度										
					主管課	大学	団体	市民	前期(3年)	後期(2年)	次期計画		実施年度										
											R5	R6	R7	R8	R9	実施内容等		実施成果		評価	今後の方向性		
ものづくり文化のさらなる発信	3-1-1	活用	新規	ものづくり体験ツーリズムの推進	米作り発祥の「月の輪田」、日本遺産の「丹後ちりめん回廊」、古代から栄えた製鉄技術など、歴史的・文化的・伝統的な価値をもつ「ものづくり」に触れる「ものづくり体験ツーリズム」の推進。	商工振興課	●	●	●	○	○	○	府補助金、市費	○						▶地域一体型オープンファクトリーイベント 2025大阪・関西万博の来場者を京丹後に誘客するための受入体制整備としてコーディネーター育成やプレツアーを実施	R6.7.18 キックオフ/第1回ワークショップ 6名参加 R6.7.30 第2回ワークショップ 12名参加(高校生1名含む) R6.9.25・10.9・10.23 OFコーディネーター養成講座(オンライン) 7名参加 R6.10.18・19 国内クリエイター向けプレツアー 7名参加 R7.1.21 万博年キックオフ/ワークショップ 6名 R7.1.29 先進地視察(福井市)2社参加【予定] R7.3.10・11 海外クリエイター向けプレツアー R7.3.11・12 高校生向けファクトリーツアー	高い	拡充
						観光振興課	●	●	●	○	○	○	府補助金、市費	○	○	○	○	○	観光公社又は海の京都DMOが進める「ものづくり体験ツーリズム」の造成支援を行う。	海の京都DMOが行う広域的な歴史的・文化体験ツアーの造成に向けた補助金支援を実施。	高い	拡充	

3-2. 「丹後ちりめん」をめぐる人と技に関する措置											3-2. 進捗管理												
課題	番号	分野	事業名	事業内容	主体				期間			財源	令和6年度										
					主管課	大学	団体	市民	前期(3年)	後期(2年)	次期計画		実施年度										
											R5	R6	R7	R8	R9	実施内容等		実施成果		評価	今後の方向性		
産業の観光活用	3-1-1	活用	新規	ものづくり体験ツーリズムの推進	米作り発祥の「月の輪田」、日本遺産の「丹後ちりめん回廊」、古代から栄えた製鉄技術など、歴史的・文化的・伝統的な価値をもつ「ものづくり」に触れる「ものづくり体験ツーリズム」の推進。	商工振興課	●	●	●	○	○	○	府補助金、市費	○						▶地域一体型オープンファクトリーイベント 2025大阪・関西万博の来場者を京丹後に誘客するための受入体制整備としてコーディネーター育成やプレツアーを実施	R6.7.18 キックオフ/第1回ワークショップ 6名参加 R6.7.30 第2回ワークショップ 12名参加(高校生1名含む) R6.9.25・10.9・10.23 OFコーディネーター養成講座(オンライン) 7名参加 R6.10.18・19 国内クリエイター向けプレツアー 7名参加 R7.1.21 万博年キックオフ/ワークショップ 6名 R7.1.29 先進地視察(福井市)2社参加【予定] R7.3.10・11 海外クリエイター向けプレツアー R7.3.11・12 高校生向けファクトリーツアー	高い	拡充
						観光振興課	●	●	●	○	○	○	府補助金、市費	○	○	○	○	○	観光公社又は海の京都DMOが進める「ものづくり体験ツーリズム」の造成支援を行う。	海の京都DMOが行う広域的な歴史的・文化体験ツアーの造成に向けた補助金支援を実施。	普通	拡充	
丹後ちりめんに関する資料の整理と活用	3-2-1	保存・管理	継続	郷土資料館管理運営事業	織物関係等の民俗資料等を収集・調査・公開する郷土資料館を文化財保護・啓発の拠点施設として運営する。	文化財保存活用課				○	○	○	市費	○	○	○	○	○	企画展示の開催(2回)や、小中学校の見学・体験対応等を実施する。また、夏休みイベントを実施する。	企画展示3回(夏・秋)、資料館まつり1回(90人)。資料館まつりでは、手紙体験を実施。	普通	維持	

4-1. 「花開いた仏教文化」に関する措置											4-1. 進捗管理												
課題	番号	分野	事業名	事業内容	主体				期間			財源	令和6年度										
					主管課	大学	団体	市民	前期(3年)	後期(2年)	次期計画		実施年度										
											R5	R6	R7	R8	R9	実施内容等		実施成果		評価	今後の方向性		
本市の宗教文化のさらなる解明に向けた調査・研究	4-1-1	調査・研究	新規	山林寺院所在調査及び記録の作成	これまで十分に把握できていない山林寺院等の所在調査を行う。また生活文化・伝承等寺院・墓地等について現地調査や聞き取り調査により、記録の作成を行う。	文化財保存活用課	●	●		○	○		外部資金(大学研究費)、国庫補助金、市費	○	○	○	○	○	山林寺院等の調査を、大学研究費(大学教員の科学研究費等)を利用し、大学その他関連機関と連携しながら進める。	京都府立大学文化遺産学フィールド実習に協力。8月8日～10日実施。久美浜町において稲葉家文書、矢田神社、民俗行事等について資料調査や聞き取り調査を行い、特に未把握部分の把握に務めた。	普通	維持	
	4-1-2	調査・研究	新規	石造物の悉皆調査	市民より有志を募り、市内の石造物の悉皆調査を実施する。	文化財保存活用課			●			○	国庫補助金、市費										
建造物や美術工芸品等の適切な維持管理	4-1-3	保存・管理	継続	美術工芸品等の保存・修理への支援	彫刻、絵画などの美術工芸品の劣化を抑え、次代に継承するために必要な保存・修理方策の整備を図るため、文化財所有者への相談窓口や保存・修理のための補助システムの構築を検討する。	文化財保存活用課		●	●	○	○	○	国庫補助金、府補助金、市費					○	○				

4-2.「暮らしを彩る祭礼・芸能」に関する措置											4-2. 進捗管理												
課題	番号	分野	事業名	事業内容	主体			期間			財源	令和6年度											
					主管課	大学	団体	市民	前期(3年)	後期(2年)		次期計画	R5	R6	R7	R8	R9	実施内容等	実施成果	評価	今後の方向性		
祭礼・民俗芸能の記録保存の推進	4-2-1	調査・研究	継続	祭礼・民俗芸能の把握調査及び映像記録の作成	地区アンケートの結果や過去の調査資料から明らかになった市内の民俗芸能の現状把握と映像・写真による記録保存を推進する。また休止した民俗芸能等は、道具や衣装類や聞き取り調査を行い、映像記録等の収集につとめる。	文化財保存活用課		●		○	○	○	○	○	○								
						生涯学習課		●		○	○	○	○	○	○	○							
	4-2-2	調査・研究	新規	市内の民俗行事調査	市内各区の生活文化や年中行事について、文化財保護審議会委員や市民の協力を得ながら、現状把握等の調査を実施する。	文化財保存活用課		●	●				○										
4-3.「半島と共に生きる食の知恵」に関する措置											4-3. 進捗管理												
課題	番号	分野	事業名	事業内容	主体			期間			財源	令和6年度											
					主管課	大学	団体	市民	前期(3年)	後期(2年)		次期計画	R5	R6	R7	R8	R9	実施内容等	実施成果	評価	今後の方向性		
各地域の特色ある食文化の調査	4-3-1	調査・研究	新規	食文化に関する調査	各地区で継承されている歳時食や行事食、郷土料理など、豊かな食文化に関する調査を進める。	文化財保存活用課			●			○											
						健康推進課		●	●	○	○	○											
	4-3-2	活用	活用	フードツーリズムの推進	「京丹後百寿レシピ体感プログラム」として認証取得したヘルスツーリズムをはじめ、健康長寿のまちの礎となった郷土食や伝統的な食文化を活かした「フードツーリズム」の推進。	観光振興課		●	●	○	○	○		○									
若年層への食育の推進	4-3-3	人づくり	継続	食文化伝承推進事業	地域の伝統的な食文化への理解を深め、本市に伝わる食文化を伝承していくため、小学校、中学校の児童・生徒を対象に郷土食の調理指導等を実施する。	健康推進課		●	●	○	○	○		○	○	○	○	○					
						学校教育課		●	●	○	○	○											
	4-3-4	人づくり	継続	食育伝達講習会	市内各地域で市民を対象に、食生活改善推進員が郷土食等の伝達講習会を行い普及する。	健康推進課		●	●	○	○	○		○	○	○	○	○					